

理科 中学校 1 年

単元名「身のまわりの物質」
—4章 水溶液の性質—
新興出版社啓林館

本時の流れ

○一定温度では一定量の水に溶ける物質の量には限界があり、物質の種類によって違うことを理解する。

CLICK

本時の詳細
はこちら

CLICK

ワークシート
はこちら

課題の把握



【課題】

『前の時間に死海の海水とほぼ同じ濃度の食塩水を作ってみました。死海の海水より濃い食塩水をつくることはできるでしょうか。』



【課題の把握】

☆状況をよりよく伝えるために具体物を示しながら課題提示をする。
☆課題に対する質問をさせ、状況に関する理解を深めさせる。

方法の予想と話し合い



(指示) 体験等、理由を明らかにして方法を詳しく書きましょう。

【方法の予想と話し合い】

☆生活体験、前時までの学習体験などに基づき、理由を明らかにして予想させることと、それを詳しく書かせることが重要である。
☆何を根拠にどのように予想したかについて意見交流を行わせる。
☆単に予想を出し合うことにとどまらず、理由の交流が重要である。
☆交流を通じての気づき、方法の多様性について書かせる。
※教師は、生徒が調べていく内容(課題)を明確にするように支援することが重要である。

実験による確かめ

(指示) 実験をして調べてみよう。

【実験】

☆生徒実験をさせる。
食塩とミョウバンをそれぞれ少しずつ 100g の水に溶かしていき、溶けるかどうか調べさせる。

結果についての話し合い

(指示) 結果をまとめましょう。

【結果のまとめと話し合い】

☆結果と結果から分かること、考えたことや気付いたことを分けて書かせる。
☆予想した理由と結果から分かることを関連付けて意見交流、発表させる。

学習のまとめ

【学習のまとめ】

☆飽和、飽和水溶液、溶解度について、教師が整理し、ノートに書かせる。
☆飽和水溶液のイメージを粒子モデルで表させる。

HOME

単元の流れへ

授業展開例へ